



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）吉田 匡慶

問合せ先責任者 （役職名）取締役財務管理部長 （氏名）間島 孝弘 TEL 0257-23-2333

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	29,212	3.2	1,811	18.7	2,045	36.3	1,432	41.4
2026年3月期第1四半期	28,314	4.5	1,525	△5.2	1,500	△21.7	1,013	△33.3

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 1,388百万円（22.8％） 2026年3月期第1四半期 1,130百万円（1.4％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	59.28	—
2026年3月期第1四半期	41.91	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2027年3月期第1四半期	99,902	68,063	68.1	2,815.92
2026年3月期	101,410	67,207	66.3	2,780.37

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 68,063百万円 2026年3月期 67,207百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	20.00	—	22.00	42.00
2027年3月期	—				
2027年3月期（予想）		22.00	—	22.00	44.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	56,600	6.9	1,300	△12.5	1,400	△10.8	900	△20.2	37.23
通期	126,600	5.2	5,800	△22.6	6,000	△25.0	4,100	△30.7	169.62

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	27,700,000株	2026年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	3,528,931株	2026年3月期	3,527,944株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	24,171,571株	2026年3月期1Q	24,174,687株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、所得環境の改善が続き、個人消費が底堅く推移しているものの、不安定な国際情勢を背景としたエネルギー供給不安や相場変動等により、物価上昇圧力が強まる状況が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、先行き不安による消費者の生活防衛意識が依然として高い中、節約志向への対応とともに、円安基調のもと、原材料調達価格高止まりへの対応、とりわけ、包材関係資材の調達に係る対応が続いています。

このような中、当社グループでは、2027年3月期を初年度とする3か年を対象とした中期経営計画を策定し、品質保証第一主義のもと、食を中心とした「心と身体健康増進への貢献」によって社会に役立つ企業を目指し、当社の課題であり重点取組事項とした「強さの再構築」に向けて、事業成長と収益力向上、生産体制の再構築、人財育成と健康経営に取り組んでおります。

その結果、国内菓子事業における主力のビスケットカテゴリーの順調な推移等により、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期を上回りました。

	前第1四半期 連結累計期間（百万円）	当第1四半期 連結累計期間（百万円）	伸長率 （％）	構成比 （％）
国内	27,583	28,434	103.1	97.3
国内菓子	26,344	27,193	103.2	93.1
飲料・食品・冷菓・ 酒類・その他	1,238	1,241	100.2	4.2
海外（輸出含む）	731	777	106.4	2.7
連結売上高	28,314	29,212	103.2	100.0

利益面では、包材関係資材価格上昇の影響が及び始めているものの、一部商品の価格改定に加え、生産性の向上とコストの削減、経費の効率的な使用に継続して努めたことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも前年同期を上回りました。

	前第1四半期 連結累計期間（百万円）	当第1四半期 連結累計期間（百万円）	伸長率 （％）
営業利益	1,525	1,811	118.7
経常利益	1,500	2,045	136.3
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,013	1,432	141.4

各事業およびカテゴリーの概況は次のとおりであります。

<国内菓子>

国内菓子では、ロングセラー商品の安心感と価格優位性の高い商品を基軸とした商品展開および店頭を重視した企画提案とフォロー活動に努めるとともに、ビスケットカテゴリーをはじめ、プチシリーズや“アルフォートミニチョコレート”シリーズ等が順調に推移したことから、売上高は前年同期を上回りました。

○ビスケットカテゴリーは、香ばしくコクのあるクッキーとアーモンドのおいしさを楽しめる「アーモンドロア」を発売し、“ホームカフェビスケット”シリーズが順調に推移しました。加えて、バニラが香るミルククリームを入れた「クリームあ〜んぱんモーモーバニラ」を発売した“チョコあ〜んぱん”シリーズも順調に推移しました。また、メロンフェアや夏の塩スイーツフェアなどの企画を展開し、カテゴリーの活性化を図りご支持をいただきました。ほかにも、選ぶ楽しさを提供するプチシリーズは、ディスプレイコンテストを実施し、ブランド認知の拡大とシリーズの活性化に取り組み、節約志向が続く中で順調に推移しました。さらには、価格優位性の高い“スタンダードビスケット”シリーズやロングセラーという安心感から「ルマンド」等の“オリジナルビスケット”シリーズとビスケット大袋商品もご好評をいただき、カテゴリー全体でも順調に推移しました。

○チョコレートカテゴリーは、アーモンドがぎっしり詰まった板チョコレート「アーモンドラッシュ」をリニューアルしたことに加え、“アルフォートミニチョコレート”シリーズでは、クラウンメロンや塩バターなど期間限定商品を展開し、ブランドの活性化に取り組みました。また、「ひとくちルマンド塩キャラメルアイス味」を発売し、“ひとくちルマンド”シリーズの活性化を図りました。さらには、「じゃがチョコグランデミニビター」や「エブリバーガークッキー&バニラ袋」を発売し、食べきりタイプ商品の展開による個食需要の獲得を図ったものの、大袋商品等が伸び悩み、カテゴリー全体では前期を下回りました。

○キャンデーカテゴリーは、“しゃりもにグミ”シリーズで、3種の果汁を組み合わせた「しゃりもにグミフルティエナジードリンク味」を発売し、ブランド認知の向上を図りました。また“フェットチーネグミ”シリーズでは、J A全農とのコラボレーション商品を発売し、売上の底上げを図りました。加えて、気温が高まる時期に合わせて「ミネラル塩グミソルティライチ味」を発売し、ニーズに合わせた展開に取り組んだものの、カテゴリー全体では、競争激化の影響を受け前年同期を下回りました。

○その他菓子カテゴリーは、発売65周年の「羽衣あられ」で地域ごとにCM投入を図り認知の向上を図りました。また、凍らせて食べる“フローズンフロートゼリー”シリーズや、かき混ぜると食感が変化する不思議なデザート“もちゅとろスライムゼリー”を発売し、品揃えの強化を図りました。しかしながらカテゴリー全体では、既存品の伸び悩みや競争激化の影響から、前年同期を下回りました。

なお、2026年6月30日に発売した商品「おさかなスナックアーモンドミックス」の自主回収（アレルゲン物質（えび）コンタミネーション）に関しまして、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、心よりおわび申し上げます。2027年3月期第1四半期決算開示時点において健康被害の報告は無く、再発防止対策についても構築実施済みであります。自主回収を継続していますが、通期業績に与える影響については軽微であると予測しております。

<飲料・食品・冷菓・酒類・その他>

飲料・食品・冷菓・酒類・その他の売上高は、食品カテゴリーが全体をけん引し、前年同期を上回りました。

○飲料カテゴリーは、「やさしいココナッツミルクPET430」や「牛乳でおいしくこだわりココア缶180」が取り扱い拡大に伴い順調に推移しました。

○食品カテゴリーは、品質と価格のバランスに評価をいただいた粉末ココア商品が、取り扱いの拡大を受け伸張しました。また、機能性食品群では、“スローバー”シリーズ、“プロテインバー”シリーズにご支持をいただきました。

○冷菓カテゴリーは、パウチタイプの「バームロールムース」を発売し、既存の「ルマンドムース」とともに拡販を図りました。また、ミルクの甘さにほんのり塩味を感じる「ミネラル塩バニラアイス」を発売し、品揃えの強化を図りました。

○酒類カテゴリーは、限定醸造ビール「潤いホップの惚れ惚れエール」を4年ぶりに発売し、エチゴビールブランド商品群の底上げを図りました。また、エチゴビール那須工場を起点とした生産拡大に向け、鋭意取り組みました。

○その他では、通信販売事業は、一部商品で需要の伸び悩みがあったものの、季節や催事に合わせた詰合せ商品等のオリジナル企画に取り組み、品揃えと買い上げ点数の増加を図りました。自動販売機事業は、設置場所に合わせた商品展開等を図り自動販売機1台当たりの収益性向上に努めたほか、新規設置の獲得に注力しました。

<海外>

海外部門の売上高は、前年同期を上回りました。

国内での認知が高い商品ならびにブランドを中心とした輸出展開に加え、現地小売業との取り組みを通じたシェアの拡大に取り組みました。また、中国・アメリカの拠点では対象国内での企業認知向上と、商品取り扱いの拡大を図るとともに、昨年度設立したベトナム法人では、現地人員の採用などを通して体制の構築を進めつつ、現地小売業の新規開拓や関係強化を図りました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は50,139百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,915百万円減少となりました。これは主に、季節変動要因による受取手形及び売掛金の減少と原材料及び貯蔵品の増加があったことによるものです。固定資産は49,762百万円となり、前連結会計年度末に比べ407百万円増加となりました。これは主に、設備投資に伴う有形固定資産の取得があったことによるものです。

この結果、総資産は99,902百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,507百万円減少となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は24,329百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,261百万円減少となりました。これは主に、法人税等の支払による未払法人税等の減少および季節変動要因による未払費用の減少があったことによるものです。固定負債は7,508百万円となり、前連結会計年度末に比べ103百万円減少となりました。

この結果、負債合計は31,838百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,364百万円減少となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は68,063百万円となり、前連結会計年度末に比べ856百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上と剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は68.1%（前連結会計年度末66.3%）となりました。

(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は19,010百万円となり、前連結会計年度末（20,826百万円）に比べ1,815百万円減少となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は164百万円（前年同期238百万円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益2,018百万円と法人税等の支払額1,477百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,317百万円（前年同期1,171百万円の支出、対前年同期比112.4%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,244百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は681百万円（前年同期584百万円の支出、対前年同期比116.6%）となりました。これは主に、配当金の支払額531百万円および長期借入金の返済による支出77百万円があったことによるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年4月28日の「2026年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,844	19,010
受取手形及び売掛金	15,157	11,870
商品及び製品	5,643	6,831
仕掛品	1,137	1,100
原材料及び貯蔵品	8,508	10,433
その他	773	899
貸倒引当金	△9	△6
流動資産合計	52,055	50,139
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,676	17,437
機械装置及び運搬具（純額）	13,000	13,224
その他（純額）	9,294	10,051
有形固定資産合計	39,971	40,714
無形固定資産		
のれん	405	376
その他	869	889
無形固定資産合計	1,275	1,265
投資その他の資産		
その他	8,108	7,782
投資その他の資産合計	8,108	7,782
固定資産合計	49,354	49,762
資産合計	101,410	99,902

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,059	12,984
短期借入金	810	810
1年内償還予定の社債	300	300
未払法人税等	1,646	243
賞与引当金	1,582	678
その他	10,190	9,312
流動負債合計	26,590	24,329
固定負債		
長期借入金	1,745	1,667
役員退職慰労引当金	297	263
退職給付に係る負債	4,506	4,504
負ののれん	5	5
その他	1,056	1,067
固定負債合計	7,612	7,508
負債合計	34,202	31,838
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,108	7,108
利益剰余金	58,930	59,831
自己株式	△903	△903
株主資本合計	66,171	67,072
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,724	1,805
為替換算調整勘定	△1,162	△1,255
退職給付に係る調整累計額	473	441
その他の包括利益累計額合計	1,035	990
純資産合計	67,207	68,063
負債純資産合計	101,410	99,902

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	28,314	29,212
売上原価	21,281	21,495
売上総利益	7,033	7,717
販売費及び一般管理費	5,508	5,905
営業利益	1,525	1,811
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	52	85
持分法による投資利益	0	7
為替差益	—	110
負ののれん償却額	0	0
その他	26	44
営業外収益合計	80	248
営業外費用		
支払利息	6	8
為替差損	87	—
減価償却費	3	3
その他	7	3
営業外費用合計	105	15
経常利益	1,500	2,045
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	0	1
特別利益合計	0	1
特別損失		
固定資産処分損	0	1
減損損失	0	0
投資有価証券評価損	37	27
特別損失合計	37	28
税金等調整前四半期純利益	1,463	2,018
法人税、住民税及び事業税	△39	178
法人税等調整額	490	406
法人税等合計	450	585
四半期純利益	1,013	1,432
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,013	1,432

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	1,013	1,432
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	146	80
為替換算調整勘定	0	△93
退職給付に係る調整額	△29	△31
その他の包括利益合計	117	△44
四半期包括利益	1,130	1,388
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,130	1,388
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,463	2,018
減価償却費	1,285	1,275
のれん償却額	28	28
受取利息及び受取配当金	△53	△86
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	6	8
持分法による投資損益 (△は益)	△0	△7
為替差損益 (△は益)	87	△102
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△1
固定資産処分損益 (△は益)	△0	1
減損損失	0	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	37	27
売上債権の増減額 (△は増加)	3,415	3,289
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,306	△3,068
仕入債務の増減額 (△は減少)	721	921
未払費用の増減額 (△は減少)	△1,345	△1,406
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△12	△33
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△77	△48
その他	△982	△1,251
小計	1,267	1,564
利息及び配当金の受取額	53	86
利息の支払額	△6	△8
法人税等の支払額	△1,553	△1,477
営業活動によるキャッシュ・フロー	△238	164
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,152	△1,244
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
投資有価証券の売却による収入	0	2
その他	△16	△71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,171	△1,317
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△77	△77
リース債務の返済による支出	△60	△72
配当金の支払額	△447	△531
財務活動によるキャッシュ・フロー	△584	△681
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	19
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,994	△1,815
現金及び現金同等物の期首残高	17,391	20,826
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,396	19,010

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

当社グループの事業は、食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類等の菓子及び飲料食品等の食料品の製造・販売並びにこれらの付随業務であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。